

【科研費応募支援ニュースレターNo.8】 発信日 230802 (水)
タイトル_科研費申請書の書き方：「2 応募者の研究遂行能力及び研究環境」

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。

7月14日には科研費公募が開始となりました。

科研費応募支援ニュースレター、今回は、申請書の書き方に関する内容の3回目です。

(独)日本学術振興会の小寺孝太郎氏セミナー、水谷夏樹先生・田原弘一先生・木元小百合先生による「学内講師による科研費セミナー」においてお教えいただいたこと、科研費関連本『科研費獲得の方法とコツ』(児島将康 著)、『できる研究者の科研費・学振申請書』(科研費.com 著)等からの情報、ささやかな自分の経験などから、エッセンスのみですが、本学でも一番申請数の多い「基盤C」申請を想定して、書かせていただきます。

今回は、申請書の「2 応募者の研究遂行能力及び研究環境」の書き方についてです。

科研費申請書作成において重要な点は、1つは研究課題の重要性(新規性も含め)ですが、もう1つ重要な点は、申請者がその課題を実行して、成果を出せることを審査委員に示すことです。科研費の原資は税金ですので、税金を使って、優先して行う重要課題であること、また、それを実行して成果を出すことができる研究者を採択することが重要な点であることは当然かと思えます。そのため、申請内容を実行できる能力と環境を客観的に審査委員に示すことが大切です。「客観的に」が特に大切です。

前回のニュースレターに書きましたように、申請内容に関わる未発表データは、「1. 研究目的、研究方法など_(5)本研究の目的を達成するための準備状況」のところに記載し、研究実施可能性が高いことをアピールしてください。

(1) これまでの研究活動

この部分は、平成30年以前は、「研究業績リスト」でしたが、様々な検討の末、現在のように、申請課題の実行可能性を示す、つまり申請課題に関わる研究業績を単なるリストではなく、課題との関わりを示しながら、つまりストーリーとして書くようになっていきます。「ストーリーとして書く」とは、単に、論文を並べるだけでなく、たとえば、「○○の研究を行い、その結果、□□のことが明らかになった(業績論文1)。この成果をもとに、次は、●●を目的として、△△を行い、～」というものですので、古いものから記載する方が、書きやすく、また、審査委員も理解しやすいかと思えます。

以下のものをご記載ください。

原著論文や特許。分野によっては、著書や作品。

原著論文が一番重要です。

(申請課題に関係するもので、自分がまるごと1冊書いた本や編集した本の表紙画像を入れておくのも、申請者の能力のアピールにはいいです。)

論文がまだできていないときは学会発表でも。

過去の科研費の獲得とその成果が今回の申請につながっていることを示す。

広報活動もあれば(例えば「ひらめきときめきサイエンス」等)(特に教育系)。

受賞歴。

学会の各種委員歴(申請課題と関わるもの)等。

すべての業績を記載するスペースはないと思いますので、申請課題に関係あるもので、なるべく5年以内の論文と有名雑誌に掲載された論文を優先させて下さい。審査委員はリサーチマップを見られることもありますので、これは更新しておいて下さい。

ご自身の研究室のホームページがあればよりよいです。(そのURLを記載しておく)

学内でも、研究室のホームページを作成されている先生方もおられます。

課題を大きく変更したなどの理由から、申請課題に関係する論文がない、あるいは少ない場合には、内容において直接の関係はなくても、実験方法等が共通した論文を記載するなどして、実行可能性をアピールして下さい。

申請書の枠内に小さな字で書かれていますが、課題に関連した国際的取組(国際共同研究の実施や海外機関での研究歴等)があれば、是非、御記載ください。最近、学振では「国際性」が強く言われているようです。今頃なぜか、とも思いますが、審査委員の情報更新においても、「国際性」に関連する項目が追加されました。

(2) 研究環境(研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む)

研究施設、スペース、特殊な施設が必要な場合(放射性物質や遺伝子組換え実験等)にはそれも。

研究機器(必要だが、持っていないものがあるときは、初年度に購入する、または、△△大学の○○先生に借りる許可を得ている等を記載)。

研究で使用する予定の試料、資料やデータベースを持っている。他

ここは採択後揃える必要のある備品だけを書くのではなく、現在、これだけのものが揃っているので、研究課題の実行可能性が高いということを審査委員に示す部分です。

機器は長らく使用経験があり、操作方法には精通していることも書いてもいいかと思えます。

研究環境として、人的環境も重要と思います。研究をしていると予想外の結果がでて、ご自身や研究分担者の専門外のことを知る必要性がでてくることもあります。そのときに、相談等できる研究者との交流があることもご記載いただくといいです。

今回は、「わかりやすく」するためにはどうすればいいかについて、図、見た目なども含めて述べる予定です。

本学 web サイト【研究・社会連携»科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html

【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただきたいと思っております。気軽にお付き合いいただき、なにかすこしでも先生方のお役に立てればと願っております。

ご不明点、ご意見などございましたら、メールで URA 高木敦子まで、お伝えいただきますよう、お願い致します。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

失礼致します。